

オシマヒメテントウ

Nephus oshimensis Sasaji
コウチュウ目・テントウムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、坂井市雄島と福井市の福井大学構内（1998年）より記録がある。今回、基準産地である坂井市雄島にて複数回調査されたが、確認できなかった。日当たりのよいササ群落に特異的に生息するため、生息基盤は脆弱と判断できる。

種の特徴

体長 1.4 ~ 2.0 mm。地色が黒色の小型のヒメテントウで、上翅各翅に1つの淡色赤紋を有する。触角、口器が橙褐色で、雄の前胸背板に淡色部があること等で、近縁の種と区別できる。日当たりのよいササの群落に生息する。

分 布

本州に分布するが、少ない。県内では、坂井市雄島と福井市の福井大学構内でのみ確認されている。

生息を脅かす要因

生息域は非常に限られており、生息地における環境整備等でササ群落が刈り取られてしまうと、存続基盤を失うこととなる。下草刈り等の整備を行う場合でも、貴重な生物の生息地になっていないか等の確認が必要である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、坂本（1999）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

ガマクスイ

Telmatophilus orientalis Sasaji
コウチュウ目・キスイムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

あわら市舟津、敦賀市中池見より記録があったが、あわら市舟津では埋立てにより生息地が失われた。今回の調査で、新たな生息地（あわら市北潟湖）が確認されているが、生息域は限られており、また、ガマの穂に特異的に生息するため、存続の基盤は脆弱である。

種の特徴

体長約 2 mm の、褐色で卵型の小さな甲虫である。節第 2・3 節が前下方に伸長することによって他のキスイムシ類から区別される。ガマの穂に特異的に生息するという生態的特徴を持つ。

分 布

本州に分布。本県では、敦賀市中池見、あわら市北潟湖の湿地のガマ群落に生息している。

生息を脅かす要因

湿地のガマの穂に特異的に生息し、かつ生息域も限られているため、生息地の湿地の埋め立てやガマ群落の消失が、生息を脅かす要因となる。ガマ群落をはじめとする湿地環境の慎重な保全が必要である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				

ヨツボシカミキリ

Stenygrinum quadrinotatum Bates
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧 I B 類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅が危惧されている。本県でも 1995 年以降の記録がない。かつてはクリの花等に普通に観察されたが、近年は全く確認できない。

種の特徴

体長 10 mm 内外。全体やや光沢のある黄褐色、上翅は中央部が暗色で明るい計 4 紋を持つ。平地～低山に生息し、初夏、各種の花に飛来し、特にクリの花を好む。

分 布

北海道～九州、奄美諸島に分布する。本県では、1995 年のおおい町虫鹿野での記録が最も新しく、そのほか里山を中心にかつては広く分布が確認されていた。

生息を脅かす要因

要因が判明していない。華奢な種類であるため、各種薬物の散布に弱いかもしれない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○		○			○					○	

昆虫類